

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300602		
法人名	株式会社 あぐり		
事業所名	グループホーム あぐり		
所在地	岡山県和気郡和気町日室124-1		
自己評価作成日	令和 2 年 2 月 19 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail,2018,022,kani=true&JigyosyoCd=3372300602-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井2-2-18		
訪問調査日	令和 2 年 3 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の時間の流れを大切に、モンテッソーリケアに取り組んでいます。ご自分で出来る限り取り組めるよう、秩序感のあるわかりやすい物的環境設定に努めています。職員自身も人的環境となり「見る」「促し」「待つ」姿勢に努めています。生活の中で役割を持っていただくことで、ここでの「生きがい」「やりがい」へつながるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ケアの前提が、人を良く知ることから、運営推進会議を家族会として、年末に家族との大掃除をしたり、一緒に手作り弁当を食べたりして、コミュニケーションをより深め、何でも話せる場が出来ている。だからこそ、意見や要望が出やすく、さらにより良いサービスに繋がっている所が素晴らしい。職員の意見もし易く出来る環境があるので、更に、利用者や家族の意見等の情報収集が、違うポジションからも聴ける工夫をしている。とにかく施設長が熱くて経験も豊富で、デファクトスタンダードを赦さない姿勢が差別化を生む。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、施設内に理念を掲げています。また、C会議(リーダー会議)、D会議(職員会議)などで確認しています。	玄関と共有フロアに掲示している。毎年ある研修会で、職業倫理について触れる中で、理念の通りに仕事を遂行し行く事で、倫理観を高めて行けるといった伝え方で、理念が浸透して行ける様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お正月やお祭りなどの行事ごとには、利用者の方と一緒に参加しています。	町内会に入っており、溝掃除の参加や秋の祭りで夕方から買い物をしたり、子供会への寄付、運営推進会議に町内会と民生委員が必ず参加する等で付き合いがある。	もっと町内会を活用しては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、モンテッソーリケアをはじめ、認知症ケアの実践を報告しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、そのうち年3回は全利用者のご家族も交えて開催しています。そこで話し合った意見、要望を参考にして、より良いサービスにつなげられたらと思っています。	隔月で開催しており、その内、4か月毎に家族会を開催。更に、その内、毎年11月には、家族と施設の大掃除をする。町内会、役場、民生委員、家族が参加。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議、地域密着型サービス協議会などを活用して、意見交換や相談、相互の助言を行うなど、より良い関係づくりに努めています。	窓口は、施設長。施設の取り組みを伝えたり、最新情報を聴いたり、ファックスで受けたりする。協議会は、各事業所が自主的に運営し、当番制でテーマを検討したり、介護報酬の情報交換をして、地域で連携できる運営方法を模索し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どうしても安全が確保できない方1名に限り、ご家族、地域包括支援センター、行政とも協議しながら対応を検討しています。玄関はこれまでの経緯も踏まえ、現在施錠をしています。	身体拘束はしない。身体拘束廃止委員会とリーダー会議で、ケアの質を学び合い、行政からの提案や家族の同意を受けて、安全と安心を提供している。特にスピーチロックはせず、日中はリビングにて職員と声を掛けながら安全を確保して穏やかに過ごせるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のC会議、D会議で話し合いを行っています。また、それに関する研修も実施し、職員全体の意識向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	必要な利用者の方もおられるので、地域包括支援センター主催の研修などに参加して、皆で理解して活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者から十分な説明を行っており、ご家族は理解、納得されていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交流会での意見の交換、面会時の意見、希望などの傾聴、苦情受付箱を設置しています。意見、苦情がある場合は、その都度、皆で話し合い解決するように心がけています。	普段の面会に加えて、行事で家族と関わる機会が多いので、意見を聴ける機会に恵まれている。面会の時の会話では、自然と、生活の質の向上(QOL)について語り合う時間にもなり喜んでもらっている。「あぐり便り」を発送し、家族へ行事の取り組みの理解を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員に業務報告書を提出してもらっています。その中の意見を拾い、C会議、D会議にて検討しています。適宜、面談も行っています。	業務報告書からの把握と、日常から職員と積極的に話をする時間を持つようにする事で、チームワークの強めて行ける様にしている。また、規範や倫理観を正して言う事もあり、よい緊張感を持って、皆で同じ方向に向かって働ける様に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見を聞き、なるべく期待に添えるように努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に必要な研修があれば、参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和気町地域密着型サービス連絡協議会(2ヶ月に1回開催)へ出席しています。また、研修会等へ参加する際に、交流へ繋がるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と今までの生活情報や不安なこと、要望などをしっかりと話し合い、少しでも安心して入居して頂けるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族からの意見、要望などに重点を置いてアセスメントを行なっています。ご本人、ご家族から安心、信頼を持ってもらえるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの意見、要望などを聞いたうえで、ここでのご本人にとって一番必要な支援、サービスを考えられています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人をよく見て、可能な限りできることに取り組んで頂くように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	交流会等での屋内外での清掃作業、面接時の居室の片付け、衣類の整理などをお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が面会に来られた時などには、再度の面会をお願いしています。	家族、町内の知人、元婦人会のメンバーの面会で、話しやすく出来る様に気を配っている。散歩の時間を活用して元の家近くに寄ったり、近くの行楽地にドライブに行ったり、初詣に氏神の神社に出掛けたりしている。毎月、馴染みの理美容師の訪問を受け、散髪の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の様子、状態、関係などを配慮し、ご利用者同士の穏やかな関係が保てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の要望を重視し、今後の生活に対しても出来るかぎりの相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から、今までの習慣や思い、暮らしかたの希望を伺い、できるだけご本人の希望に添った暮らしかたを支援していきたい。	入所前の聴き取りを元に、「自分で選ぶ」「好きなこと」を「自分のペース、スペース」で「好きなだけ」の、法人の方針であるモンテッソーリアケアを実践出来る様に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャーやその他の関係者から、出来る限り情報をいただき、本人理解に努めています。また、少しずつですが、ご利用者の自分史作りにも取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個々のご利用者の体調把握、生活状況の変化など、十分に気を付けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を含め、ご家族、スタッフなどで話し合い、ここでの生活が現状を維持し、満足感のある生活が送れるようなケアプランを心がけています。	入所時にプランを作り、3か月・6か月・認定更新時や状態併せてモニタリングを行う。 入院等で状態の変化があれば介護計画の見直しをしている。また、プランの実践状況として、毎日、チェック票に記載して見直しに役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、入浴、毎日の生活などを、個々に記録し、職員間で情報を共有し、ケアプランの作成や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の一人ひとりの様子、状態に応じた支援やサービスを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域のお祭り、初詣などに参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望している医療機関への受診を職員対応にて実施しています。特別な受診はご家族対応でお願いしています。	元のかかりつけ医から協力医に転医。24時間対応。隔週での往診、定期的受診があり、職員が受診を介助する。訪問歯科は、歯科医や歯科衛生士による口腔ケアは、月1回。月2回、訪問看護師による健康管理あり。意思同士の連携があり、専門医へも、職員が受診を介助する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に病院看護師の訪問があり、健康面で気になることなどを相談し、適切な健康管理や病院受診などに繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの連携や、可能な範囲で病院へも足を運び情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会、地域推進会議の集まりなどで看取りについて説明し、理解を得ています。ご家族も安心されるようで、事業所でできることを説明しながら、方針を共有しています。昨年末、はじめて看取り支援を行い、1名の方がグループホームで最期を迎えられました。	看取りを受け入れている。昨年は1人を看取った。殆どの職員が看取りが豊か。看取り期に入ると、医師から家族に説明をする。胃瘻・インシュリン・点滴の必要が生じれば、入所の継続はできない。運営推進会議で看取りを協議し受け入れの準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防にお願いして、救急手当、初期対応などの訓練を行っています。マニュアルの確認なども定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の避難訓練は年2回実施しています。地域推進会議等で地域との連携も築いていると思います。	消防計画に基づき、水害の避難訓練を昼夜想定で行う。土砂災害時の対応マニュアルを作成して備えている。区長を通して地域との災害時の連携網を設け、運営推進会議で報告している。一時避難場所を事業所の中二階を考え、普段の食材を多めに発注して、災害時に備えている。	もっと地域へ、こちらからアピールしては、如何でしょうか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご利用者の性格や人格に添った言葉かけ、対応に気をつけています。	家族との合意で、呼称は、苗字にさん付け。その方の反応の良い呼び方で呼ぶ場合がある。トイレや入浴時の際は、その方だけに分かる呼び方で呼ぶ。「自分で選択し自分のペースで行えるように」を介護の主軸とし、その人らしく生活出来るよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかりと意思決定のできる方には、ご本人の気持ちや希望なども伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限のルールの中で、ご本人の意思で自由に過ごしてもらっています。モンテッソーリケアを取り入れたことで、よりその人らしい一日を考え、支援するように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方には、お風呂の準備などもお願ひして、好きな衣類を選んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分でできる方には、食材の準備、片付けなども手伝ってもらっています。	利用者の現病を把握し、医師と情報共有した上で、刺身・酒類・鍋など、出来るだけ自由で豊富な献立を提供出来る様に努力している。手作りの甘酒やケーキ・団子・善哉も提供している。外食も利用者と一緒に楽しんでいる。お月見等、季節料理を提供して季節感を味わってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量などを記載し、ご本人の健康状態の把握や維持を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で歯磨きができるように支援したり、毎日、夜間には入れ歯洗浄を行っています。また、歯科医師や歯科衛生士の訪問が定期的であり、必要な歯科治療と共に口腔ケアも実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全てのご利用者の毎回の排泄、排尿記録を取り、排泄パターンを掴み、少しでも自立に向けた支援をしています。	利用者が立っただけで「トイレ」と言わない。その方のしぐさや機微な行動を、日頃から観察しているので、適切なタイミングでトイレに誘導する。「今行ったが」を言わない。意思が示せない方は、排泄パターンをよく把握して、少しでも自立や改善に繋げられる様に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やしたり、医師とも相談しながら定期的な排便があるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事や特別なことが無い限り、原則、午後に入浴を行っています。	週2-3回入浴を提供し、一人一人にかかる時間を、出来るだけ設ける様にしている。希望があれば、毎日でも入浴可。入浴剤を選んで頂く。秋が深まれば、柚子湯を提供。家族の希望で訪問入浴を実費利用している入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各ご利用者が自由に居室、リビング、畳の部屋などでくつろがれています。夜もそれぞれ好きな時間帯に休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	H30年10月より、居宅療養管理指導を活用し、院外処方の方は薬剤師と連携し、管理しています。院内処方の方は、管理者が医師、ご家族と連携し、管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	巻き寿司を巻いたり、おやつ作りなど、毎月色々な行事を企画し、準備段階から手伝っていただいています。また、畑での野菜作りも取り組み始めました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、地域の行事、レクリエーションとしての外出、花見など、屋外への外出を行っています。	月ごとにドライブや気分転換を兼ねて全員で参加している。散歩は日課となっている。特に帰宅願望が強い方を優先。リバーサイド公園に桜の花見・藤公園に藤見・熊山の英国庭園・閑谷へ紅葉狩等を楽しんでいる。園庭に出て外気浴を兼ねてバーベキューをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、預り金はしていません。基本的にはご家族にお願いしています。おやつの買い物へ出掛け、支払いの機会は随時設けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話をかけてもらったり、かかってくればご本人と話してもらいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は色彩でわかりやすくコントラストをつけたり、写真やイラストを掲示しています。また、季節毎に羽子板、お雛様、クリスマスツリーなどを飾っています。また、日々の写真を飾ったり、あぐりの新聞、クラフトで作った作品などその都度掲示しています。	共用部分は、積極的に明るくして、気分良く過ごしてもらえます。玄関先の庭園に季節の花が、季節ごとに咲き誇る。節句の飾りが要所要所に飾られ、季節感を感じる。ユニット間は自由に行き来できるよう閉鎖的にならない工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に1人机を設置し、活用しています。また、自室、ソファー、畳の部屋など、それぞれお好きな場所で自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が持って来られた家具、カーテン、写真など、馴染みの物があり、落ち着かれています。安全性も考えながら居心地の良い居室作りを考えています。	家族写真や手作りの飾りが、利用者の個性を生かしたものになっている。床に物を置かないよう配慮し転倒対策をしている。季節の変わり目に家族が布団の更衣をし、家族が参加する機会を作る工夫が見られ、家族も頼める場づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が職員に尋ねなくても、自らできるように、秩序感のある環境設定に取り組んでいます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300602		
法人名	株式会社 あぐり		
事業所名	グループホーム あぐり		
所在地	岡山県和気郡和気町日室124-1		
自己評価作成日	令和 2 年 2 月 19 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3372300602-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井2-2-18		
訪問調査日	令和 2 年 3 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の時間の流れを大切に、モンテッソーリケアに取り組んでいます。ご自分で出来る限り取り組めるよう、秩序感のあるわかりやすい物的環境設定に努めています。職員自身も人的環境となり「見る」「促し」「待つ」姿勢に努めています。生活の中で役割を持っていただくことで、ここでの「生きがい」「やりがい」へつながらるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ケアの前提が、人を良く知ることから、運営推進会議を家族会として、年末に家族との大掃除をしたり、一緒に手作り弁当を食べたりして、コミュニケーションをより深め、何でも話し合える場が出来ている。だからこそ、意見や要望が出やすく、さらにより良いサービスに繋がっている所が素晴らしい。職員の意見もし易く出来る環境があるので、更に、利用者や家族の意見等の情報収集が、違うポジションからも聴ける工夫をしている。とにかく施設長が熱くて経験も豊富で、デファクトスタンダードを赦さない姿勢が差別化を生む。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、施設内に理念を掲げています。また、C会議(リーダー会議)、D会議(職員会議)などで確認しています。	玄関と共有フロアに掲示している。毎年ある研修会で、職業倫理について触れる中で、理念の通りに仕事を遂行し行く事で、倫理観を高めて行けるといった伝え方で、理念が浸透して行ける様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お正月やお祭りなどの行事ごとには、利用者の方と一緒に参加しています。	町内会に入っており、溝掃除の参加や秋の祭りで夕方から買い物をしたり、子供会への寄付、運営推進会議に町内会と民生委員が必ず参加する等で付き合いがある。	もっと町内会を活用しては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、モンテッソーリケアをはじめ、認知症ケアの実践を報告しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、そのうち年3回は全利用者のご家族も交えて開催しています。そこで話し合った意見、要望を参考にして、より良いサービスにつなげられたらと思っています。	隔月で開催しており、その内、4か月毎に家族会を開催。更に、その内、毎年11月には、家族と施設の大掃除をする。町内会、役場、民生委員、家族が参加。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議、地域密着型サービス協議会などを活用して、意見交換や相談、相互の助言を行うなど、より良い関係づくりに努めています。	窓口は、施設長。施設の取り組みを伝えたり、最新情報を聴いたり、ファックスで受けたりする。協議会は、各事業所が自主的に運営し、当番制でテーマを検討したり、介護報酬の情報交換をして、地域で連携できる運営方法を模索し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どうしても安全が確保できない方1名に限り、ご家族、地域包括支援センター、行政とも協議しながら対応を検討しています。玄関はこれまでの経緯も踏まえ、現在施錠をしています。	身体拘束はしない。身体拘束廃止委員会とリーダー会議で、ケアの質を学び合い、行政からの提案や家族の同意を受けて、安全と安心を提供している。特にスピーチロックはせず、日中はリビングにて職員と声を掛けながら安全を確保して穏やかに過ごせるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のC会議、D会議で話し合いを行っています。また、それに関する研修も実施し、職員全体の意識向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	必要な利用者の方もおられるので、地域包括支援センター主催の研修などに参加して、皆で理解して活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者から十分な説明を行っており、ご家族は理解、納得されていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交流会での意見の交換、面会時の意見、希望などの傾聴、苦情受付箱を設置しています。意見、苦情がある場合は、その都度、皆で話し合い解決するように心がけています。	普段の面会に加えて、行事で家族と関わる機会が多いので、意見を聴ける機会に恵まれている。面会の時の会話では、自然と、生活の質の向上(QOL)について語り合う時間にもなり喜んでもらっている。「あぐり便り」を発送し、家族へ行事の取り組みの理解を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員に業務報告書を提出してもらっています。その中の意見を拾い、C会議、D会議にて検討しています。適宜、面談も行っています。	業務報告書からの把握と、日常から職員と積極的に話をする時間を持つようにする事で、チームワークの強めて行ける様にしている。また、規範や倫理観を正して言う事もあり、よい緊張感を持って、皆で同じ方向に向かって働ける様に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見を聞き、なるべく期待に添えるように努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に必要な研修があれば、参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和気町地域密着型サービス連絡協議会(2ヶ月に1回開催)へ出席しています。また、研修会等へ参加する際に、交流へ繋がるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と今までの生活情報や不安なこと、要望などをしっかりと話し合い、少しでも安心して入居して頂けるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族からの意見、要望などに重点を置いてアセスメントを行なっています。ご本人、ご家族から安心、信頼を持ってもらえるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの意見、要望などを聞いたうえで、ここでのご本人にとって一番必要な支援、サービスを考えられています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人をよく見て、可能な限りできることに取り組んで頂くように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	交流会等での屋内外での清掃作業、面接時の居室の片付け、衣類の整理などをお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が面会に来られた時などには、再度の面会をお願いしています。	家族、町内の知人、元婦人会のメンバーの面会で、話しやすく出来る様に気を配っている。散歩の時間を活用して元の家近くに寄ったり、近くの行楽地にドライブに行ったり、初詣に氏神の神社に出掛けたりしている。毎月、馴染みの理美容師の訪問を受け、散髪の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の様子、状態、関係などを配慮し、ご利用者同士の穏やかな関係が保てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の要望を重視し、今後の生活に対しても出来るかぎりの相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から、今までの習慣や思い、暮らしかたの希望を伺い、できるだけご本人の希望に添った暮らしかたを支援していきたい。	入所前の聴き取りを元に、「自分で選ぶ」「好きなこと」を「自分のペース、スペース」で「好きなだけ」の、法人の方針であるモンテッソーリアケアを実践出来る様に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャーやその他の関係者から、出来る限り情報をいただき、本人理解に努めています。また、少しずつですが、ご利用者の自分史作りにも取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個々のご利用者の体調把握、生活状況の変化など、十分に気を付けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を含め、ご家族、スタッフなどで話し合い、ここでの生活が現状を維持し、満足感のある生活が送れるようなケアプランを心がけています。	入所時にプランを作り、3か月・6か月・認定更新時や状態併せてモニタリングを行う。 入院等で状態の変化があれば介護計画の見直しをしている。また、プランの実践状況として、毎日、チェック票に記載して見直しに役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、入浴、毎日の生活などを、個々に記録し、職員間で情報を共有し、ケアプランの作成や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の一人ひとりの様子、状態に応じた支援やサービスを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域のお祭り、初詣などに参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望している医療機関への受診を職員対応にて実施しています。特別な受診はご家族対応でお願いしています。	元のかかりつけ医から協力医に転医。24時間対応。隔週での往診、定期的受診があり、職員が受診を介助する。訪問歯科は、歯科医や歯科衛生士による口腔ケアは、月1回。月2回、訪問看護師による健康管理あり。意思同士の連携があり、専門医へも、職員が受診を介助する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に病院看護師の訪問があり、健康面で気になることなどを相談し、適切な健康管理や病院受診などに繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの連携や、可能な範囲で病院へも足を運び情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会、地域推進会議の集まりなどで看取りについて説明し、理解を得ています。ご家族も安心されるようで、事業所でできることを説明しながら、方針を共有しています。昨年末、はじめて看取り支援を行い、1名の方がグループホームで最期を迎えられました。	看取りを受け入れている。昨年は1人を看取った。殆どの職員が看取りが豊か。看取り期に入ると、医師から家族に説明をする。胃瘻・インシュリン・点滴の必要が生じれば、入所の継続はできない。運営推進会議で看取りを協議し受け入れの準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防にお願いして、救急手当、初期対応などの訓練を行っています。マニュアルの確認なども定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の避難訓練は年2回実施しています。地域推進会議等で地域との連携も築けていると思います。	消防計画に基づき、水害の避難訓練を昼夜想定で行う。土砂災害時の対応マニュアルを作成して備えている。区長を通して地域との災害時の連携網を設け、運営推進会議で報告している。一時避難場所を事業所の中二階を考え、普段の食材を多めに発注して、災害時に備えている。	もっと地域へ、こちらからアピールしては、如何でしょうか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご利用者の性格や人格に添った言葉かけ、対応に気をつけています。	家族との合意で、呼称は、苗字にさん付け。その方の反応の良い呼び方で呼ぶ場合がある。トイレや入浴時の際は、その方だけに分かる呼び方で呼ぶ。「自分で選択し自分のペースで行えるように」を介護の主軸とし、その人らしく生活出来るよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかりと意思決定のできる方には、ご本人の気持ちや希望なども伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限のルールの中で、ご本人の意思で自由に過ごしてもらっています。モンテッソーリケアを取り入れたことで、よりその人らしい一日を考え、支援するように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方には、お風呂の準備などもお願ひして、好きな衣類を選んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分でできる方には、食材の準備、片付けなども手伝ってもらっています。	利用者の現病を把握し、医師と情報共有した上で、刺身・酒類・鍋など、出来るだけ自由で豊富な献立を提供出来る様に努力している。手作りの甘酒やケーキ・団子・善哉も提供している。外食も利用者と一緒に楽しんでいる。お月見等、季節料理を提供して季節感を味わってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量などを記載し、ご本人の健康状態の把握や維持を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で歯磨きができるように支援したり、毎日、夜間には入れ歯洗浄を行っています。また、歯科医師や歯科衛生士の訪問が定期的であり、必要な歯科治療と共に口腔ケアも実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全てのご利用者の毎回の排泄、排尿記録を取り、排泄パターンを掴み、少しでも自立に向けた支援をしています。	利用者が立っただけで「トイレ」と言わない。その方のしぐさや機微な行動を、日頃から観察しているので、適切なタイミングでトイレに誘導する。「今行ったが」を言わない。意思が示せない方は、排泄パターンをよく把握して、少しでも自立や改善に繋げられる様に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やしたり、医師とも相談しながら定期的な排便があるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事や特別なことが無い限り、原則、午後に入浴を行っています。	週2-3回入浴を提供し、一人一人にかかる時間を、出来るだけ設ける様にしている。希望があれば、毎日でも入浴可。入浴剤を選んで頂く。秋が深まれば、柚子湯を提供。家族の希望で訪問入浴を実費利用している入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各ご利用者が自由に居室、リビング、畳の部屋などでくつろがれています。夜もそれぞれ好きな時間帯に休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	H30年10月より、居宅療養管理指導を活用し、院外処方の方は薬剤師と連携し、管理しています。院内処方の方は、管理者が医師、ご家族と連携し、管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	巻き寿司を巻いたり、おやつ作りなど、毎月色々な行事を企画し、準備段階から手伝っていただいています。また、畑での野菜作りも取り組み始めました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、地域の行事、レクリエーションとしての外出、花見など、屋外への外出を行っています。	月ごとにドライブや気分転換を兼ねて全員で参加している。散歩は日課となっている。特に帰宅願望が強い方を優先。リバーサイド公園に桜の花見・藤公園に藤見・熊山の英国庭園・閑谷へ紅葉狩等を楽しんでいる。園庭に出て外気浴を兼ねてバーベキューをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、預り金はしていません。基本的にはご家族にお願いしています。おやつの買い物へ出掛け、支払いの機会は随時設けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話をかけてもらったり、かかってくればご本人と話してもらいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は色彩でわかりやすくコントラストをつけたり、写真やイラストを掲示しています。また、季節毎に羽子板、お雛様、クリスマスツリーなどを飾っています。また、日々の写真を飾ったり、あぐりの新聞、クラフトで作った作品などその都度掲示しています。	共用部分は、積極的に明るくして、気分良く過ごしてもらえます。玄関先の庭園に季節の花が、季節ごとに咲き誇る。節句の飾りが要所要所に飾られ、季節感を感じる。ユニット間は自由に行き来できるよう閉鎖的にならない工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に1人机を設置し、活用しています。また、自室、ソファー、畳の部屋など、それぞれお好きな場所で自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が持って来られた家具、カーテン、写真など、馴染みの物があり、落ち着かれています。安全性も考えながら居心地の良い居室作りを考えています。	家族写真や手作りの飾りが、利用者の個性を生かしたものになっている。床に物を置かないよう配慮し転倒対策をしている。季節の変わり目に家族が布団の更衣をし、家族が参加する機会を作る工夫が見られ、家族も頼める場づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	ご本人が職員に尋ねなくても、自らできるように、秩序感のある環境設定に取り組んでいます。		